

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究の科学的知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心をもち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
21401	言語研究入門	言語研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2	*				◎		◎	○		
21402	文学研究入門	文学研究に取り組むための基礎的知識と基本的な方法論を習得する。	2		*			◎		◎	○		
21412	フランス語学概説A	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語の何が、どのような部分が、研究テーマになるのかという問題に対し、意識をもつようになること。	2,3,4	*	*				◎		◎		
21413	フランス文学史B	19世紀から20世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2,3,4			*	*	◎			◎		○
42449	フランス文学史A	中世から18世紀までのフランス文学の歴史的背景を確認し、その内的発展と文学創造の必要性を理解する。	2,3,4	*	*			◎			◎		○
42408	フランス語学概説B	・フランス語学の基礎を学ぶ ・フランス語学概説 Aと同様に、言葉の問題とは何かを継続的・発展的に考察していく習慣をつける。	2,3,4			*	*		◎		◎		
42450	フランス語圏概説A1	フランスとフランス語圏の歴史(16世紀まで)と現状について認識を深めることができる。	2,3,4	*				○		○	○		
42451	フランス語圏概説A2	フランスとフランス語圏の歴史(17世紀から大革命まで)と現状について認識を深めることができる。	2,3,4		*			○		○	○		
42452	フランス語圏概説B1	フランスとフランス語圏の歴史(19世紀)と現状について認識を深めることができる。	2,3,4			*		○		○	○		
42453	フランス語圏概説B2	フランスとフランス語圏の歴史(20世紀以降)と現状について認識を深めることができる。	2,3,4				*	○		○	○		
42454	フランス語圏研究A1	フランス文学作品、文学潮流に触れ、その世界文学における意義を把握できる。	2,3,4	*				○		○	○		
42455	フランス語圏研究A2	フランス文学作品、文学潮流に触れ、その世界文学における意義を把握できる。	2,3,4		*			○		○	○		
42456	フランス語圏研究B1	フランスとフランス語圏の歴史(大革命まで)と日本の関係について認識を深めることができる。	2,3,4			*		○		○	○		
42457	フランス語圏研究B2	フランスとフランス語圏の歴史(大革命以降)と日本の関係について認識を深めることができる。	2,3,4				*	○		○	○		
42478	フランス語作文表現法(基礎)1	フランス語の語彙や表現法の知識を増やす。	2			*			○			○	
42479	フランス語作文表現法(基礎)2	フランス語の発想で作文する能力を身につける。	2			*			○			○	
42480	フランス語作文表現法(中級)A1	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(関係節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3				*		○			○	
42481	フランス語作文表現法(中級)A2	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(様々な名詞節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3				*		○			○	

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
42482	フランス語作文表現法(中級) B1	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(時間的副詞節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3,4				*		○	○
42483	フランス語作文表現法(中級) B2	自分が伝えたいことを複文構造のフランス語(仮定や条件、原因や理由を表す節の使い方を中心として)で表現できるようになる。	3,4				*		○	○
42458	フランス文学特殊講義A1	フランス語の易しい詩を原文で読み、韻文独特の形式上の規則や指摘イメージを解釈する能力を身につける。	2,3,4	*				○	○	○
42459	フランス文学特殊講義A2	フランス語のやや難しい詩を原文で読み、韻文独特の形式上の規則や指摘イメージを解釈する能力を身につける。	2,3,4		*			○	○	○
42460	フランス文学特殊講義B1	19世紀フランス語文学作品を読解し、その意義を知ることができる。	2,3,4			*		○	○	○
42461	フランス文学特殊講義B2	19世紀フランス語文学作品を読解し、その意義を知ることができる。	2,3,4			*		○	○	○
42462	フランス語コミュニケーション I A1	フランス語の基本文法知識を確実に習得する。とりわけ、名詞・名詞眼辞、形容詞、と基本文型を使用頻度の高い動詞の構文の習得。	2	*				◎	◎	◎
42463	フランス語コミュニケーション I A2	フランス語の基本文法知識を確実に習得する。とりわけ様々な時期(過去・現在・未来)の区分を示す表現の習得。	2		*			◎	◎	
42464	フランス語コミュニケーション I B1	習得したフランス語知識を駆使して、話言葉に良く登場する平易なフランス語を速読・多読できる能力を身につける。	2			*		◎	◎	◎
42465	フランス語コミュニケーション I B2	習得したフランス語知識を駆使して、平易なフランス語テキストを速読・多読できる能力を身につける。	2			*		◎	◎	◎
42466	フランス語コミュニケーション II A1	日常生活におけるフランス語コミュニケーション能力を養成する。自分自身のことを伝える表現を中心として。	2	*				◎		◎
42467	フランス語コミュニケーション II A2	日常生活におけるフランス語コミュニケーション能力を養成する。そのためのフランス語圏文化について学ぶ。	2		*			◎		◎
42468	フランス語コミュニケーション II B1	日常生活におけるコミュニケーション能力を養成し、簡単な文章を書く表現力を養成する。DALF A1、合格レベルを目指す。	2			*		◎		◎
42469	フランス語コミュニケーション II B2	日常生活におけるコミュニケーション能力を養成し、フランス語圏文化に対する理解を深め、それを表現する能力を養成する。DALF A1 合格レベルにを目指す。	2			*		◎		◎
42470	フランス語コミュニケーション III A1	日常的なテーマに関してフランス語による会話ができるようになること。そのための基礎表現力を習得する。	3	*				◎	◎	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとつて必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム										
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4			
42471	フランス語コミュニケーションⅡA	日常的なテーマに関して、フランス語による会話伝授2級の口頭試験レベル。	3		*			◎	◎	◎
42472	フランス語コミュニケーションⅡB	日常的なテーマに関してフランス語での発信力を養成する。自らの見解を表明できるようになる。	3			*		◎	◎	◎
42473	フランス語コミュニケーションⅡB2	日常的なテーマに関してフランス語での発信力を養成する。異文化への理解を深める。CECR B1レベルを目指す。	3				*	◎	◎	◎
42474	フランス語コミュニケーションⅣA1	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3	*				◎	◎	◎
42475	フランス語コミュニケーションⅣA2	現代フランス事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3		*			◎	◎	◎
42476	フランス語コミュニケーションⅣB1	現代フランス語圏事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3			*		◎	◎	◎
42477	フランス語コミュニケーションⅣB2	現代フランス語圏事情に接しながら、フランス語の高度な理解力、自然なフランス語によるコミュニケーション能力を磨き、現場で役にたつ形で文法を復習できる。フランス語と英語をできるだけ関連付けて学び、相乗効果で両言語の能力を向上できる。	3				*	◎	◎	◎
42426	フランス語学演習 A	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3,4	*	*				◎	◎
42427	フランス語学演習 B	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3,4			*	*		◎	◎
42437	フランス語文法演習 A	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3,4	*	*			◎		◎
42438	フランス語文法演習 B	・ことばの分析の方法を学び、実践する。 ・フランス語の特徴の一分野に集中し、言葉の問題の分析ができるようになる能力を身につける。	2,3,4			*	*	◎		◎
42428	フランス文学演習 A	フランス文学読解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2,3,4	*	*			◎	◎	◎

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。 【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>	<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。 外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。 複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。 ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。 原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>

主履修分野のカリキュラム

科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4						
42429	フランス文学演習 B	フランス文学読解をめぐる諸問題とアプローチの方法を演習発表を通じて考える。	2,3,4			*	*	◎		◎	◎	◎	
42439	フランス文学分析演習 A	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2,3,4	*	*			◎		◎	◎	◎	
42440	フランス文学分析演習 B	フランス文学を読むとはどういうことかを、表現形式、イメージ、歴史的・文化的背景などに注目しながら考察する。	2,3,4			*	*	◎		◎	◎		
31152	異文化体験実習 I (フランス)	フランスの大学での語学検収を体験し、フランス語の運用能力を向上させる。	2,3	*	*			○	○				
31203	異文化体験実習 II (フランス)	フランスでの生活体験を通じ、フランスの文化に触れ親しむ。	2,3	*	*			○	○				
31001	卒業論文演習 A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*	*			◎					
31002	卒業論文演習 B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4			*	*	◎					
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4			*	*	◎					
11057	人文学序説 A	人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。ラボラトリ(実験)、サーベイ(調査と分析)という方法の基礎的な知識を理解する。	1	*		(*)		◎					
11058	人文学序説 B	人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。フィールドワーク(野外実践・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*	(*)		◎					
11059	人文学序説 C	人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。哲学・歴史学における具体的な研究実践やテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1	(*)		*		○		○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(主履修分野名)	言語文化学コース (フランス語学フランス文学)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>言語文化学コースでは、人間の言語・文化・思想・歴史、思考・創造・行動について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする言語文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような言語文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、学類共通英語に通じる英語学習の基礎固めとともに初習言語(独仏中など)を学び、翻訳練習や日本文学漢文学の読解を介して日本語による記述力の訓練も行う。2年次から6つの専門分野に分かれ、各国の語学・文学の概説や言語分析と文学作品読解に必要な基礎概念などを学ぶ。3年次では、その知識の集積をもとに、言語の差異を超えた抽象的、論理的な言語分析方法や、言語作品の多様性と言語文化に対する複眼的な理解力を高める。4年次には、自分で選定した研究課題について、「卒業論文演習A・B」を中心に資料収集と整理の技術を鍛える。また、その資料をもとに意見を組み立て発表する能力を養い、自分の見解に基づいて他人を説得できる、社会でも通用する力量を養成する。</p>		<p>コトハと文学の科学的研究にとって必要なテキスト分析の知識及び方法論を理解する。</p> <p>外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力をもつ。</p> <p>複数の言語文化に触れることにより自らの思考方法を内省し、文化的アイデンティティを獲得する。</p> <p>ひろく言語文化に関する課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。</p> <p>討論やプレゼンテーションの経験を積むことにより、意見発表能力を鍛える。</p> <p>原典を講読することにより、翻訳では理解し得ない異文化の特徴を理解し、学問的深化を実現する。</p>									
主履修分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目	学生の学習目標	学年	Q1	Q2	Q3	Q4				
11060	人文学序説D	人文学類における学問の方法を学ぶとともに、主履修分野・特別プログラムで学ぶ内容の概要を把握する。言語や文学に関するテキスト(文献)の扱い方について基礎的な知識を理解する。	1		(*)	*			○		○
11061	学類共通英語A	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*					◎		○
11062	学類共通英語B	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語A」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3		*				◎		○

※ (*)は年度によって開講時期が異なることを示します。